

あの日から

1年…



土砂崩れにより被災した吉田浄水場。
吉田・三間地区への給水機能が停止し、約1ヵ月間の断水が続いた。

平成30年7月豪雨

記録と記憶

本市に大きな爪痕を残した「平成30年7月豪雨」から1年が経過。未だに被害の痕は色濃く残り、復興に向けて今後も継続した取り組みが必要です。

これまでの記録と記憶を風化させないために、この1年を振り返ります。

7月

- 5日 大雨警報（土砂災害）発表、市災害対策本部設置
災害救助法適用
- 6日 土砂災害警戒情報・洪水警報発表
避難勧告発令（津島町御槇・上槇・清満地区の土砂災害警戒区域など）
第1回災害対策本部会議
- 7日 避難勧告発令（市内全域の土砂災害警戒区域、和霊中町ほか須賀川周辺地域など）
奥南地区で1時間雨量96mmを観測
自衛隊災害派遣活動開始（～8月15日）
保健師・栄養士避難所巡回開始
- 8日 大雨特別警報（土砂災害）発表、同日解除
避難勧告全解除
- 9日 テックフォース（緊急災害対策派遣隊）被災状況調査開始
災害ボランティアセンター開設
- 10日 気象庁が「平成30年7月豪雨」と命名
津島やすらぎの里無料入浴支援（11日～無料シャトルバス運行）
災害相談窓口開設
罹災証明書にかかる被害調査開始
保健師による独居高齢者宅など訪問開始
- 11日 災害義援金受付開始
広報うわじま号外「がんばろう！宇和島」発行
生活再建支援法適用
- 12日 中村知事現地視察
救援物資受入開始（～21日）
奥南・喜佐方小学校・登校再開



災害ボランティア活動



道路・橋の崩壊



相次いだ浸水被害



昼夜問わず行われた救助活動



市内各地で行われた給水支援



自衛隊災害派遣活動



災害対策本部会議



代替浄水施設



各地で発生した土砂崩れ

8月

- 7日 豪雨から1ヵ月。各地で黙とう
- 4日 姉妹都市宮城県仙台市から見舞金
- 3日 吉田地区（一部を除く）で試験通水開始
- 3日 三間地区で試験通水開始
- 1日 姉妹都市長野県千曲市から見舞金
- 30日 農業経営相談所開設
- 28日 被災者生活再建支援金、災害見舞金などの受付開始
- 28日 玉津小学校…登校再開
- 27日 かんきつ復興支援クラウドファンディング開始
- 26日 「激甚災害」指定
- 26日 大型浄水装置の運び込み
- 24日 代替浄水施設完成予定時期の前倒し（8月下旬↓上旬）
- 23日 姉妹都市北海道当別町から見舞金
- 23日 みなし仮設住宅、市営住宅一時使用受付開始
- 21日 吉田地区二次災害緊急避難計画（暫定）運用開始
- 20日 姉妹都市宮城県大崎市から見舞金
- 18日 無料洗濯施設開設
- 18日 保健師被災地区全戸訪問（8月1日）
- 17日 吉田小学校…登校再開
- 17日 吉田中学校…旧吉田町内の小学校に分散して登校再開
- 14日 住宅の応急修理受付開始
- 14日 「特定非常災害」指定
- 13日 立間小学校…喜佐方小学校の空き教室を活用して登校再開
- 13日 安倍首相現地視察



約1ヵ月続いた断水が解消され、園児たちからこぼれる笑顔



姉妹都市など全国からの支援



豪雨から1ヵ月。各地で黙とう



みかんボランティア活動



極早生ミカンの出荷



J R 四国卯之町駅～宇和島駅間開通



建設型仮設住宅完成（3棟12戸）

10月

- 30日 JAえひめ南が早生ミカンをトップセールス（東京都中央卸売市場大田市場）
- 25日 市復興計画第1回策定委員会
- 18日 豪雨災害復興関連のタウンミーティング（市内9箇所）
- 1日 地域支え合いセンター開設
- 29日 みかんボランティアセンター開設
- 29日 畦地梅太郎記念美術館・井関邦三郎記念館再開
- 25日 市災害復興ロードマップ公表
- 24日 豪雨災害により開設した全避難所閉鎖
- 15日 道の駅みまレストラン再開
- 13日 吉田地区で今季初のミカン出荷開始
- 12日 J R 四国卯之町駅～宇和島駅間開通
- 12日 三間地区水道水「飲用可」
- 3日 産業復興支援室現地オフィス設置、県中小企業者等グループ施設等復旧整備補助金公募開始
- 各市町からの中長期派遣職員着任

9月

- 29日 建設型仮設住宅完成（31日入居開始）
- 1日 喜佐方保育園休園
- みま米新米まつり

8月

- 8日 被災家屋の解体・撤去相談窓口設置
- 9日 災害義援金1次配分決定
- 10日 生活用水（飲用水以外）の給水支援停止
- 11日 吉田地区（一部を除く）水道水「飲用可」
- 16日 市内全域で断水解消
- 18日 みかんボランティア活動開始
- 20日 災害対策本部廃止、災害復興本部設置
- 被災家屋の解体・撤去申請受付開始



吉田町秋祭り



みま米新米まつり



豪雨災害復興関連のタウンミーティング



復興応援フェア



簡野道明記念吉田町図書館再開



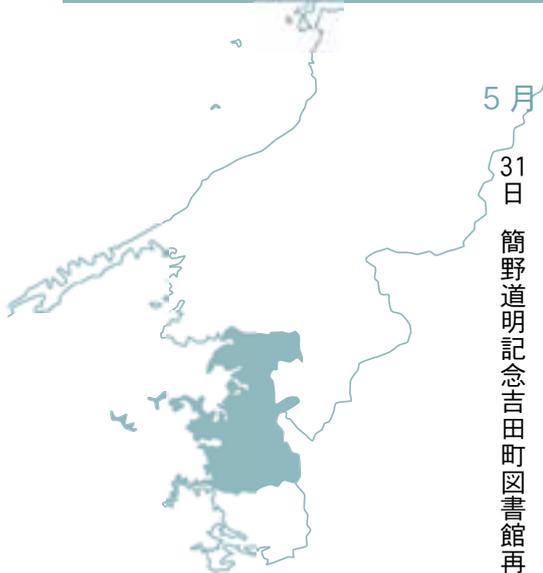
かんきつ園地の復旧作業



～復興への道～ 吉田町マラソン大会



吉田ふれあい国安の郷再開



5月	4月	3月	2月	1月	12月	11月
31日 簡野道明記念吉田町図書館再開	4日 「市復興計画」を発表	2日 市産業経済部農業復興統括官に元農林水産省職員前田安止さんを任命	1日 吉田ふれあい国安の郷営業再開	28日 えひめ宇和島復興応援フェア (3月17日・宮城県仙台市)	14日 吉田中学校復旧記念式典・立志式	12日 ヤフー(株)からの復興支援を発表
			20日 うわじま特産応援フェスタ	7日 豪雨から半年。各地で黙とう (吉田公民館内)	4日 簡野道明記念吉田町図書館一部再開	23日 復興への道く吉田町マラソン大会
					21日 吉田中学校災害復興祈念碑完成	8日 吉中愛顔未来フェス
					3日 市民アンケート調査実施	3日 吉田町秋祭り
						1日 復興に向けて外部人材を受入
						31日 県災害対策本部解散

がんばろう!宇和島

■被害・支援の状況 (3月31日時点)

被害(最大)	件数
人的被害	死者(関連死含む)13人 負傷者29人
住宅被害	全壊61件、大規模半壊115件、半壊804件、一部損壊793件
避難者数	628世帯1,149人
土砂災害	363箇所
水道被害(断水)	6,568世帯15,317人
公共土木被害	339件
農林水産業被害	約8,400件(約254億円)
商業事業者	316件

支援	人数・金額
災害ボランティアセンター	9,726人
みかんボランティアセンター	1,784人
義援金	13億1千万円
支援金	1億円
ふるさと納税(平成30年度実績)	3億9千万円

このほかにも、各市町や団体、ボランティアの皆さんからさまざまな形で支援をいただきました。本市は今後も、早期復旧・復興を目指して全力で取り組みます。



吉中愛顔未来フェス



吉田中学校災害復興祈念碑



1年を振り返る

誰もがとまどい、立ち尽くした日から1年。

思い出すのは辛いけれど、後悔ではなく糧にして。それぞれの1年を振り返ります。

吉田公民館で避難所運営に携わった加地さんは、「自分ひとりでは何とできなかった」と当時を振り返り話します。何もかもが初めての経験で右も左もわからない状況。何より加地さんを悩ませたのが、避難者のほとんどが顔も知らない人ばかりだったことでした。

避難所運営には、避難者と担当職員との関係が重要です。始めは避難所での行動を促す指示も届かず、避難所運営に時間がかかりました。そのような状況の中、すべてを完璧にこなすことはできないと判断した加地さんは、完璧でなくてもいいから、とにかく避難してきた人の声を聞く

なんでもいい。とにかく声を



吉田公民館主事
加地 優介 さん



吉田方面隊
平山 裕 さん

いつでも対応できるように、今まで以上に備えている

今回の災害で、過酷な現場で活動を続けた地元の消防団。消防団員は発災後、3日3晩は昼夜問わず活動にあたりました。自宅が被災した団員も多く、心身ともに疲労が心配されました。

副方面隊長の平山さんは、現場ではなく吉田支所の本部で各分団からの情報収集をしていました。行方不明者や土砂崩れ箇所などの状況把握し、各分団への指示を担いました。混乱する状況の中、訓練のように適切な指示ができませんでした。

平山さんは本部で各分団からの報告を受けながらも、現場の最前線で活動する団員の身が心配で気が気で

なかったそうです。ある地区では、見回り中の消防車が土砂崩れに遭い立ち往生。消防団員は何とか脱出し無事でした。過酷な状況にもかかわらず、全員が無事だったことは不幸中の幸いだったと振り返ります。

あつという間の1年間。また、梅雨の時期を迎えました。発災以降、各分団の中では当時の課題などを話し合い「いつ起きるかわからない」という危機意識を高めてきたそうです。何より、災害が起きないことが一番です。しかし万が一のときには、全力で活動にあたりたいと話してくれました。

社会福祉協議会でボランティア活動の普及に取り組み松井さん。発災後、災害ボランティアセンターの運営に中心となって関わりました。

今回特に課題とされたのが、現地要望の把握でした。ボランティアを依頼したくてもその方法を知らなかったり、依頼することを遠慮したりする人の把握が困難でした。ときにはボランティア参加者数が要望件数を上回るという状況も。自治会長や民生委員に協力を依頼し、現地を訪問して聞き取りをしましたが、それでも隠れた要望があることは否めませんでした。

松井さんは今回の災害を通して、

課題解決のためにできること

普段から1人ひとりがボランティアに対する関心を強く持たなければならぬと感じたそうです。ボランティアに詳しい人がいれば、自治会長や民生委員以外にも現地でリーダーとなる人が増え、状況に応じた支援が円滑にできます。また、それが地元で身近な存在となることで、隠れた要望にも気が付けます。



市社会福祉協議会
松井 尚史 さん





明日につなぐ—

災害をきっかけに新たな取り組みが進んでいます。
問題解決に向けて力を合わせる。
人とまちが元気になることを願った活動が、今、始まりました。



■宇和島NPOセンター（仮称）
設立準備会 代表 松島 陽子 さん

市NPO団体「うわじまグラ
ンマ」のメンバー。発災後、炊き出
し支援や被災者相談、復興イベ
ントなどを行ってきた経験を生か
し、中間支援組織設立に向けて積
極的に取り組む。



【市民会議の中で意見を出し合う皆さん】



【牛鬼会議の様子】

共有する

平成30年7月豪雨以降、行政、市
社会福祉協議会、JAえひめ南、N
PO団体などが集まり、各種支援に
関する情報や現場で起きている課題
を共有することを目的に、情報共有
会議「牛鬼会議」が始まりました。
現在も2週間に1回程度行われ、そ
れぞれが課題などを持ち寄り情報を
共有し、解決策を話し合っています。

できないをできるにつなぐ

牛鬼会議で情報共有をする中で、
市民、行政、企業、NPO団体など
をつなぐ中間支援組織の必要性に注
目が集まりました。

平成30年7月豪雨時にも、土砂撤
去や心のケアなど支援者それぞれが
専門としている分野が異なりまし
た。そのため、専門外の相談を受け
たときに対応が難しく、解決に結び
つかないこともありました。土砂撤
去の作業ならあの団体ができる、心
のケアならあの団体ができる。さま
ざまな団体とのつながりを持っている
組織が仲介役になることで、皆さ
んの「できない」を解決につなげる
ことができるのではないかと。それ
を中間支援組織が担います。

私たちを取り巻く課題

中間支援組織の立ち上げを目指し
て、牛鬼会議のメンバーらが中心と
なり「宇和島NPOセンター（仮称）」
設立準備会が立ち上がりました。市
内で開催した市民会議では、普段
困っていることについて意見を出し
合いました。そこで、災害に関する
こと以外にも、子育てや教育など日
常生活で私たちが抱える多くの課題
が持ち上がりました。

中間支援組織の活躍は、普段の生
活にも期待できます。「相談したく
てもどこに相談すればいいかわから
ない。そういった人たちの問題解決
にもつなげたい」と松島さんは話し
ます。問題解決によりその人の元氣
につながるだけではなく、まち全体
の元氣にもつながるはずです。

「人」と「まち」をつなぐ

あの日から1年……。今でも課題は
尽きません。復興に向けた取り組み
は、現在も市内各地で続いています。
人とまちをつなぎ、明日につなぐ。
それぞれが力を合わせて、今まで以
上に元氣な宇和島を目指します。